

製品名: DDR1 (リン酸化 Tyr513) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05705**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	DDR1 CAK EDDR1 NEP NTRK4 PTK3A RTK6 TRKE Epithelial discoidin domain-containing receptor 1 (Epithelial discoidin domain receptor 1) (EC 2.7.10.1) (CD167 antigen-like family member A) (Cell adhesion kinase) (Discoidin receptor tyrosine kinase) (HGK2) (Mammary carcinoma kinase 10) (MCK-10) (Protein-tyrosine kinase 3A) (Protein-tyrosine kinase RTK-6) (TRK E) (Tyrosine kinase DDR) (Tyrosine-protein kinase CAK) (CD antigen CD167a)
別名	
遺伝子 ID	780.0
SwissProt ID	Q08345
免疫原	ヒト DDR1 由来の合成リン酸化 (Phospho-Tyr513)

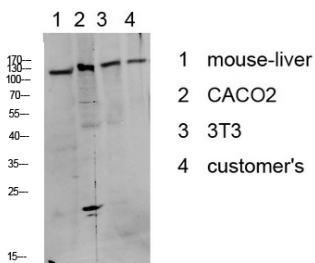
背景

受容体チロシンキナーゼは、細胞とその微小環境とのコミュニケーションにおいて重要な役割を果たします。これらのキナーゼは、細胞の増殖、分化、代謝の調節に関与しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞性粘菌 (Dictyostelium discoideum) のタンパク質ディスコイジンIと細胞外ドメインにおいて相同性を持つチロシンキナーゼ受容体のサブファミリーに属し、様々な種類のコラーゲンによって活性化されます。このタンパク質の発現は上皮細胞に限定されており、特に腎臓、肺、消化管、脳で顕著です。さらに、いくつかのヒト腫瘍において有意に過剰発現していることが示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2011年2月], 触媒活性: $ATP + a \text{ [protein]-L-チロシン} = a \text{ [protein]-L-チロシンリン酸}$ 。 ,ドメイン: グリシン/プロテインリッチドメインは、リガンドまたは基質との特殊な相互作用に必要となる可能性がある。 ,機能: 細胞間相互作用および認識に関与する可能性がある。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。インスリン受容体サブファミリー。 ,類似性: F5/8 タイプC ドメインを1つ含む。 ,類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。 ,組織特異性: 成人のほとんどの組織では低レベルで発現しており、脳と肺で最も高いレベルで発現している。乳癌細胞株に豊富に含まれます。 ,

研究分野

-

画像データ



各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は1000倍に希釈した。二次抗体は1:20000倍に希釈した。